

第 17 回 木津川上流河川環境研究会

議事要旨

【開催概要】

開催日時：平成 22 年 3 月 23 日（火） 14：00～16：00

開催場所：近畿地方整備局 第 1 別館 2F 第 3 会議室

【出席者】

委員：5 名

事務局：木津川上流河川事務所(5 名)

オブザーバー：水資源機構関西支社(1 名)、木津川ダム総合管理所(2 名)

その他：木津川上流河川事務所、水資源機構木津川ダム総合管理所

【議事次第】

1. 開 会
2. 挨拶
3. 研究会前回議事の確認
4. 議事
 - (1) 平成 21 年台風 18 号の出水状況の報告
 - (2) 各ワーキンググループの開催結果の報告
 - (3) 木津川上流管内河川環境目標について
 - (4) フラッシュ放流・土砂供給試験等に関する報告
5. その他
 - ・今後の予定など
6. 閉 会

「配付資料」

- ・資料-1 平成 21 年台風 18 号の出水状況について
- ・資料-2 河川ダム水量水質WGの開催結果
- ・資料-3 河道内樹林管理WGの開催結果
- ・資料-4 堰魚道WGの開催結果
- ・資料-5 木津川上流管内河川環境目標について
- ・資料-6 平成 21 年度 フラッシュ放流・土砂供給試験について
- ・参考資料-1 第 16 回 河川環境研究会議事要旨
- ・参考資料-2 河川ダム水量水質WG配付資料
- ・参考資料-3 河道内樹林管理WG配付資料
- ・参考資料-4 堰魚道WG配付資料
- ・参考資料-5 参考資料：河川環境の変遷

【議事項目ごとの審議結果】

1. 開 会

2. 挨拶

3. 研究会前回議事の確認

参考資料-1「第16回議事要旨」を用いて、事務局より前回研究会の議事概要について説明し了承を得た。

4. 議 事

事務局より、資料-1～6の説明を行い、各内容についてご審議いただいた。
審議結果は以下のとおりであった。

(1)平成21年台風18号の出水状況の報告

- ・出水時に高山ダム等で濁水の発生などは無かったか？

→表面取水設備で放流するため下流への濁水放流の問題は生じていない。貯水池内の長期濁水は出水時に生じることはある。

- ・出水時の水質データが入手できにくい。出水時にダム等で水質観測を実施しているのであれば、濁水以外のチッソ・リンなどの観測データを水質の検討に活かしてもらいたい。

(2)各ワーキンググループの開催結果の報告

①河川ダム水量水質WGの開催結果

- ・水質予測モデルは現況の再現性が向上した分、応答が鈍くなっている可能性があり、もう少しデータを積まないと判断できない。
- ・総負荷量管理に関して、水資源機構が比流量で検討している結果を見たことがあるが、こうしたデータを水質予測に活かせないか。
- ・水質の将来予測には下水道普及率の向上は見込まれているが、高度処理の普及は考慮されていないため、特別な対策をしない場合の予測になっている。高度処理が普及する場合の予測も実施することが考えられる。

②河道内樹林管理WGの開催結果

- ・試験施工を行った岩倉地区では、竹林の伐根までした場合と伐採のみの場合とで植生化の状況に大きな違いがあり、初期投資額と維持管理費用のコスト面を踏まえて検討することが必要である。
- ・試験施工地の状況は定点写真ではよく分からないため、地形変化や植生状況を把握するためのモニタリングを行うべきである。
- ・コブシの移植は時期と土壌が重要であるため注意を払うことが必要である。また、移植後の管理が重要であるが、どのように対応する予定か？

→今年の冬前に移植を行う予定であり、移植後の状況を見ながら対応する予定である。

③堰魚道WGの開催結果

- ・海域からのアユの遡上調査に関しては下流の淀川河川事務所の協力が必要である。
- ・アユをターゲットに縦断連続性の検討をして良いのかを再考することが必要である。
- ・ナルミ井堰の改良は管理者に負担をかけない方法が良い。簡易な方法で実施すること、管理者に協力いただくこと、現地を見て実行に移すことが重要である。
- ・遊水地の連続性改善やビオトープ整備は地域の住民や水田所有者等に整備段階・管理段階で協力いただく必要があり長期的な視点から取り組むことが課題としてある。
- ・ワークショップは住民に参加してもらい長続きさせることが必要であり、ナルミ井堰周辺の協力者の存在などを確認して早く取り組みを進めることが重要である。

(3)木津川上流管内河川環境目標について

- ・P15の「河道内植生の除去管理」は一般の人には理解されにくい表現であり再考が望ましい。「河道内植生の適正管理」ではどうか。
- ・提案された個別目標の構成は上手くまとめてありこれで良いと考えるが、河川管理者として木津川上流管内の固有の目標、望ましい将来像をどの程度、設定する必要があるのかがよく分からない。
- ・木津川は河川の形態も多様であるため、ブロック毎に目標を立てて、そのトータルとして将来の望ましい姿に集約する方法がある。
- ・当面は個々の目標を積み上げることで、その先に望ましい姿が見えてくると考えるのか？又は、同時に望ましい姿を検討するのか？の両方の方法がある。
- ・将来の望ましい姿を描く時に住民などの意見を聞くことが必要であるが、住民から自発的な意見を集めることは困難であるため、こちら側から案を提示して意見を聞くことが必要となる。
- ・個別目標や保全再生の施策を積み上げて、その内容を見ると木津川上流の望ましい姿が見えてくると良い。河川環境が多様であるため、先に、望ましい姿を定める場合には合意が形成しにくい。
- ・急流の山地区間は自然の流路であり、手を加える必要性は少ない。
- ・一般の人に理解してもらうためには象徴的なモノを掲げた分かりやすい表現が望ましい。
- ・欠席の委員の方々にも意見を伺うことが必要である。
- ・木津川上流域の特徴、木津川上流域らしさをもう少し鮮明にしないと、環境目標を発表しにくいのではないかと。
- ・木津川上流域の主要課題を逆に捉えると特徴が見える可能性がある。
- ・更に議論を深めるためのキーワードを抽出することが必要である。

(4)フラッシュ放流・土砂供給試験等に関する報告

- ・効果などの把握に向けた調査も積み重ねられているが、効果を把握するには水辺の国勢調査では把握できないため、特定の調査を効率的に実施する必要がある。
- ・取り組みには賛成であるが、置き土の場所、時期等、実施の手法には更に工夫が必要である。
- ・現在の実施規模では広範囲に効果が出ないため、区域等を限定して微少な意味合いであったとしても効果の狙いを定めることも必要である。

5. その他

- ・本日いただいた課題について検討・整理を進め、次回の研究会に諮りたい。
- ・次年度も継続的に検討を行うため委員の方々には引き続きご指導をお願いしたい。

6. 閉 会

以 上